

第三十七回 歯と病気との関係

歯の咬み合わせのバランスが崩れますと（前後、左右、対角線）頭のテッペン「百会」という「つぼ」（左右の耳から頭のテッペンの位置）が異常をおこし下へくぼむものです。

この「百会」は百以上の病気と関係あるという名でついたとも言われ、この「百会」の異常反応が消えればほとんどの病気がよくなると言われています。（但し針の世界）

この百会の反応が消えればを医学的に言いますと、自律神経の交感神経と副交感神経とのバランスがとれているとも言われています。医学では神経さえわかればどんな病気も治るといわれる位に……。

そしてこの「百会」は最低でも3つの反応をおこすものです。

- (1) 鼻水
- (2) 心臓の異常の為に体がむくみやすい
- (3) 腸の幽門部の異常による便秘又は下痢

この3つの反応があるものです。

（常に運動している人はこの3つの内どれか自覚症状が出ない人もいる）

そしてさらに脾臓、腎臓等の内臓が異常反応していますと（但し壊死しているものは除く）この「百会」反応をとりますとこの3つの反応以外の内臓の反応も消えるものです。そして体が温かくなり、両足が痛い、ダルイという反応も消えるものです。つまり全身の血流の循環がよくなり、治癒力が増すものです。急性の病気以外の慢性の病気とか精神安定剤を飲んでいる（但し、1~2ヶ月ならばOK、何年ものみ続けている、これはダメ……依存症だから）アトピーとかがよくなるものです。

もう一つここで不思議なことがあります。

医者から服用するように勧められた薬を手で持つだけで自分の体に合う反応をする場合と拒否する場合とがあるものです。

拒否する場合は左右の足の長さが違い、頭蓋骨及び体の胴体部もすべてが捻れをおこすものです。つまり副作用をおこしやすいことです。

自分の体に合わない薬を長期に服用しますと、体の硬膜の膨張をおこし、頭からおしり、

骨、内臓、筋肉が固くなり、神経伝達システムの不良となるものですから治癒力も落ちるものです。そして左右の足の長さも全く変化しない、つまり下顎を右へいっぱい横にズラしても反対側の左足の長さを変化しないということになります。（正常は反対側が短くなるものです。）ところが体全体、つまり頭蓋骨から足まで調整しますと拒否した薬まですべてが今度は体が受け入れます。

ところが「百会」の反応を取り除きますと今度は瞬時に体がほとんどの薬・サプリメント等を拒否します。つまり薬が体に必要ないという事を意味します。薬で治すのでなく症状を抑える為の薬なら体が拒否するという事です。

それでは「百会」の異常反応を消すには、顎関節を正常にしてから歯の咬み合わせの調節で頭蓋骨のバランスをとることで全身の血流がよくなることです。

このように歯医者が顎関節症を治すことによって慢性の病気とか認知症の予防に非常に大きく役立つものです。

（付加 1）

2本足で歩けない赤ん坊がただ泣くばかり、その時逆さまに両足首をもって、20～30秒ぶらさげてみるとよいでしょう。それだけで骨盤、背骨、首の骨、頭蓋骨も皆正常に機能するものなのです。2本足で歩き、頭蓋骨の成長期迄だと骨盤だけ治せば背骨から頭蓋骨まですべてが正常になり血流もよくなるのです。

頭蓋骨の成長期に頭蓋骨を触ってはいけないと言われていますが歯の矯正治療ではそういうことおこまいなしでやるもの100%体に異常をおこすものです。

歯のインプラントも難病といわれる靭帯骨化症となりやすいのではといわれるようになってきています。

（付加 2）

頭蓋硬膜と脊髄硬膜（骨の内側から軟幕、くも膜、硬膜と一番外側についている）の緊張をおこしますと各骨がギュッと圧迫された状態と言っていいような感じでズレようにもズレられないで体全体が硬くなるものです。

左右の手足の長さがほぼ同じくらいで顎関節のレントゲンを撮影すると左右がほぼ均等に写るものです。

そして血液を送るポンプ作用が弱い為に血液の流れも悪く内臓始め体全体の冷え性をおこし体全体がダルクなるものです。

硬膜の緊張をおこす原因には電磁波（電気毛布、携帯電話、高圧線の下で住む、高圧線の下で走る新幹線、放射線層の間を飛ぶ飛行機とか・・・）外的障害（歯の矯正治療による頭蓋骨への障害、歯のインプラントは噛むことによる骨への衝撃、特に夜間の咬みしめ）

（付加 3）

コンタクトレンズを左右両目に入れますと眼球は奥へ（後ろへ）に押し込められ、顔の左右のほほ骨・おでこ・後頭骨も前に出てくることになり頭と首の骨、この間に異常をおこし骨盤も異常をひきおこすものです。

骨盤も異常をおこすものですから、足への血流も異常をおこします。又、片方の眼にコンタクトレンズを入れますと入れた側の眼は奥へ押し込められ、その側のほほ骨は前へ、反対側の頭の後ろの後頭骨は後ろへ出ます。ほほ骨が前出ている側の足は外へ開き、顎関節症と同じ症状をひきおこし、又つぼの「百会」も異常反応をおこすものです。軽い力でもこのように体の反応をおこすものです。

歯の咬み合わせのバランス不良ではもっと大きく体全体のズレをおこすものです。